

第2期 とやま呉西圏域都市圏ビジョン (原案)



令和2年8月

とやま呉西圏域連携推進協議会

目 次

第1章 とやま呉西圏域における広域連携

1 都市圏ビジョン策定の趣旨	1
2 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体	1
(1) 連携中枢都市圏の名称	1
(2) 連携中枢都市圏の構成自治体	1
3 計画期間	2

第2章 とやま呉西圏域の現状

1 圏域の概要	3
(1) 全体概要	3
(2) 構成市の概要	4
2 圏域の人口	7
(1) 将来人口推計	7
(2) 人口構成	8
(3) 人口動態	9
3 圏域の産業	10
(1) 工業	10
(2) 農業・漁業	12
(3) 観光	14
4 都市機能の集積状況	15

第3章 とやま呉西圏域の将来像

1 圏域が目指す将来像	21
2 圏域づくりの基本方針	22
3 重点プロジェクト	26

第4章 連携協約に基づき推進する具体的取組

1 連携事業	27
(1) 圏域全体の経済成長のけん引	27
(2) 高次の都市機能の集積・強化	31
(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	34
2 進行管理	43
(1) 基本目標	43
(2) 重要業績評価指標 (KPI)	44
(3) 推進及びフォローアップ体制	46

資料編

第1章 とやま呉西圏域における広域連携

1 都市圏ビジョン策定の趣旨

人口減少・少子高齢化が進行する昨今の社会情勢の中、地域の再生、創生を果たすには、一定の規模と都市・生活機能を包括する広域的な地域において、人口や活力ある社会経済を維持することが重要です。

本圏域を構成する富山県西部6市は、古くから呉西と称され、加賀藩に色濃く影響を受けた文化圏や、通勤・通学などによる一体的な経済・生活圏を形成してきました。しかし、全国的に急速な人口減少が進む中、本圏域では全国平均を上回る速度で高齢化が進行していることなどから、圏域の活力を将来的に維持・向上するためには、圏域ネットワークの一層の強化を図り、地域経済の活性化や交流人口の拡大、定住の促進を図っていく必要があります。

このことから、とやま呉西圏域では、平成27年8月に県西部6市長による富山県西部圏域連携都市圏形成推進宣言を行い、翌28年10月3日には6市が連携協約を締結し、「とやま呉西圏域連携中枢都市圏」を形成。同日付で具体的な取組を示す都市圏ビジョンを策定しました。

本ビジョンは、圏域を構成する6市が持つそれぞれの個性・特性を活かし、圏域の発展に向けた新たな取組やこれまで進めてきた連携を更に深めることにより、圏域全体の経済成長や住民サービスの向上につなげる、中長期的な「圏域の将来像」を示す戦略として策定するものです。

2 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体

(1) 連携中枢都市圏の名称

とやま^{ごせい}呉西圏域

(2) 連携中枢都市圏の構成自治体

高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市

3 計画期間

2021 年度（令和 3 年度）から 2025 年度（令和 7 年度）の 5 年間



第2章 とやま呉西圏域の現状

1 圏域の概要

(1) 全体概要

本圏域は、富山県の中央部に位置する呉羽丘陵の西部、県内7大河川に数えられる庄川及び小矢部川流域並びにこれらの河川が注ぎ込む富山湾の沿岸部に広がる約1,500k m²のエリアです。

この地域は、高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市及び南砺市の6市から構成され、人口は約44万人（平成27年国勢調査）、県内に占める人口割合の41.6%、面積割合の34.8%となっており、県庁所在地の富山市（人口約42万人、面積約1,300k m²）とほぼ同規模の比較的コンパクトな圏域です。

圏域の特色・強みとして、産業面においては臨海工業地域を中心にアルミ、鉄鋼等の金属製品や化学産業が集積しており、高岡銅器や井波彫刻等の伝統産業も発達しています。またチューリップ球根、干柿、ハトムギ、コシヒカリ、マグロ、寒ブリ、シロエビ、ベニズワイガニ、ホタルイカ、庄川あゆなどの全国的な知名度を誇る農林水産品を有しています。

観光面では、庄川峡、砺波平野の散居村、富山湾越しの立山連峰の景観、富山湾の海の幸など、山から海に至る豊かな自然環境と、世界文化遺産・五箇山合掌造り集落、倶利伽羅源平古戦場、大境洞窟住居跡、国宝・瑞龍寺、高岡御車山祭、城端曳山祭、高岡・山町筋や井波・城端の門前町など、歴史に培われた格調高い伝統・文化資産、また日本海側最大の斜張橋新湊大橋、海王丸パーク、氷見の漁業文化を伝える漁業文化交流センター（ひみの海探検館）、砺波チューリップ公園など、多彩な観光資源を有しています。

交通体系においては、古くから舟運、海運のネットワークにより地域経済を発展させ、その後、北前船等により広域的な交流を広げてきた歴史があります。現在も北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道といった高規格幹線道路網や日本海側の総合的拠点港である伏木富山港、北陸新幹線などの広域交通・物流網ほか、通勤・通学等、地域住民の足となる、あいの風とやま鉄道、JR城端線・氷見線、万葉線があり、これらを域内外へ網羅的につなぐことにより、交流拠点としての存在感を有しています。

(2) 構成市の概要

○高岡市

高岡市は、東西と南北に広がる広域交通網により県西部の各市をつなぐとともに、県西部と三大都市圏とを結ぶ交通の要衝であり、環日本海に向かっては総合的拠点港を有する日本海側中央部の「扇の要」に位置しています。

奈良時代には越中国守・大伴家持が 223 首もの歌を万葉集に残し、近世には加賀前田家 2 代当主・前田利長公が町を開くなど、時代の流れの中で創意を積み重ねながら、県西部の中核都市として文化・経済の両面で発展してきました。

平成 27 年 3 月、北陸新幹線の開業という「強み」を加え、本地域の更なる求心力を高める中で、豊かな自然と歴史・文化につつまれ人と人がつながる「市民創造都市」の実現を目指しています。

○射水市

射水市は、富山県の中央に位置し、コンパクトな市域に、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾をはじめ、川、野、里山などの豊かな自然、連綿と受け継がれてきた伝統文化、さらには 5 つの高等教育機関が立地するなど、魅力ある資源が集積しています。

また、日本海側を代表するランドマーク「新湊大橋」をはじめ、国際拠点港湾である伏木富山港新湊地区（富山新港）や高速道路、鉄道といった物流の拠点となる社会資本も備えています。加えて、海王丸パークをはじめとした射水ベイエリアには多くの観光客が訪れており、特に港町の風情が漂う内川周辺は、映画等のロケ地として活用されるなど、知名度も上がっています。

このような特性を生かし、数多くの確かな地域力とともに、「人の流れ」「物の流れ」の中心として発展し、将来を担う子どもたちをはじめ、誰もが笑顔にあふれ、夢と希望に満ちたまちづくりに取り組んでいます。

○氷見市

氷見市は、富山県の北西部、能登半島の基部に位置し、多くの幸をもたらしてくれる「青い海」と「みどり豊かな大地」を有し、人の心を引きつける自然の恵みに包まれています。

日本海側有数の氷見漁港には、四季を通じて豊富な魚種が水揚げされ、初夏の「マグロ」、冬の「寒ブリ」、そして「氷見鰯」は広辞苑にも掲載されるほど有名です。また、里山の幸にも恵まれ、氷見産米や氷見牛、ハトムギなど豊かな食文化を育んできました。さらに、日本ではじめて調査された洞窟住居跡「大境洞窟」や万葉の歌人大伴家持ゆかりの史跡など、歴史のロマンにも満ちあふれています。加えて、市内には温泉が湧出し「能登半島国定公園・氷見温泉郷」として親しまれ、このような恵まれた地域資源を活かした魅力的なまちづくりに取り組んでいます。

○砺波市

砺波市は、農・商・工のバランスの取れた田園都市として発展を遂げてきました。住環境をはじめ医療や子育て環境、高齢者福祉の充実した住みやすい都市として、民間経済誌でも常に全国上位にランクインしています。

庄川の清流が育んだ肥沃な平野に家屋が点在する「散居村」景観のなかに、日本有数のチューリップ球根や種もみの生産地として力強い農業が展開されており、観光面でも、チューリップ産業のシンボルイベントとして毎年GWに砺波チューリップ公園で開催される「となみチューリップフェア」は、国内外から数多くの観光客が訪れる春の風物詩として全国的にも高い評価を受けています。

このほかにも花や地場産品を活かしたユニークなイベントの開催をはじめ、地域の文化や伝統がしっかりと受け継がれており、温かい市民気質のもと健全で安心な地域社会による住みよいまちづくりを進めています。

○小矢部市

小矢部市は、富山県の西の玄関口に位置し、砺波平野を貫流する小矢部川に育まれた穀倉地帯で、古くから小矢部川を利用した水運の発達により、加賀藩の藩倉が置かれたことから、宿場町・城下町として栄えてきました。

遠く加賀・能登を一望できる稲葉山牧野、清流と温泉の宮島峡、源平古戦場と日本三不動の一つ倶利伽羅不動寺のある倶利伽羅県定公園などの豊かな自然や、歴史的な発見が続いた桜町縄文遺跡、絢爛豪華な石動曳山祭り、色彩豊かな津沢夜高あんどん祭り、獅子舞が奉納される石動天神祭など歴史や伝統にあふれています。また、能越自動車道、東海北陸自動車道、北陸自動車道の3つの高速道路が交差する交通の要衝でもあります。

平成27年7月には、日本海側初となるアウトレットモールがオープンするとともに、平成30年11月には石動駅の新駅舎と南北自由通路、令和2年3月には新駅に併設して新たに市民図書館が開館するなど、若者や女性を中心とした賑わいと魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

○南砺市

南砺市は、富山県の南西部に位置し、約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。五箇山地方では、日本の他の地域には見られない「合掌造り家屋」の集落が成立・発展するなど、独自の風土に根ざした、固有の文化を育んできました。

世界文化遺産をはじめとする歴史・文化資源や、伝統工芸・特産品を活用した多彩な観光イベントが四季を通じて市内各地で開催されており、これらの資源を連携し、交流人口の拡大、雇用の創出に取り組んでいます。

2 圏域の人口

(1) 将来人口推計

本圏域の総人口は 443,151 人（平成 27 年国勢調査）となっており、1985 年（昭和 60 年）の 491,217 人をピークに減少傾向が続いています。

近年では、若い世代の都市部への流出や出生率の低下等による人口減少と高齢化の進行、経済成長の低迷、それらに伴う中心市街地の空洞化が進んでおり、国立社会保障・人口問題研究所によると、圏域の人口は、2045 年（令和 27 年）時点において 322,959 人まで減少するものと推計されており、全国平均（16.3%）を大きく上回る 3 割近くの減少が見込まれています。

圏域の総人口と将来推計人口

（単位：人、％）

	総人口	将来推計人口			増減率 (H27－R27)
	2015年 (H27)	2025年 (R7)	2035年 (R17)	2045年 (R27)	
高岡市	172,125	161,299	145,494	131,477	▲23.6
射水市	92,308	87,287	80,332	72,885	▲21.0
氷見市	47,992	40,444	33,078	26,111	▲45.6
砺波市	49,000	47,359	44,811	41,578	▲15.1
小矢部市	30,399	27,077	23,574	19,891	▲34.6
南砺市	51,327	44,626	37,832	31,017	▲39.6
とやま呉西圏域	443,151	408,092	365,121	322,959	▲27.1

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

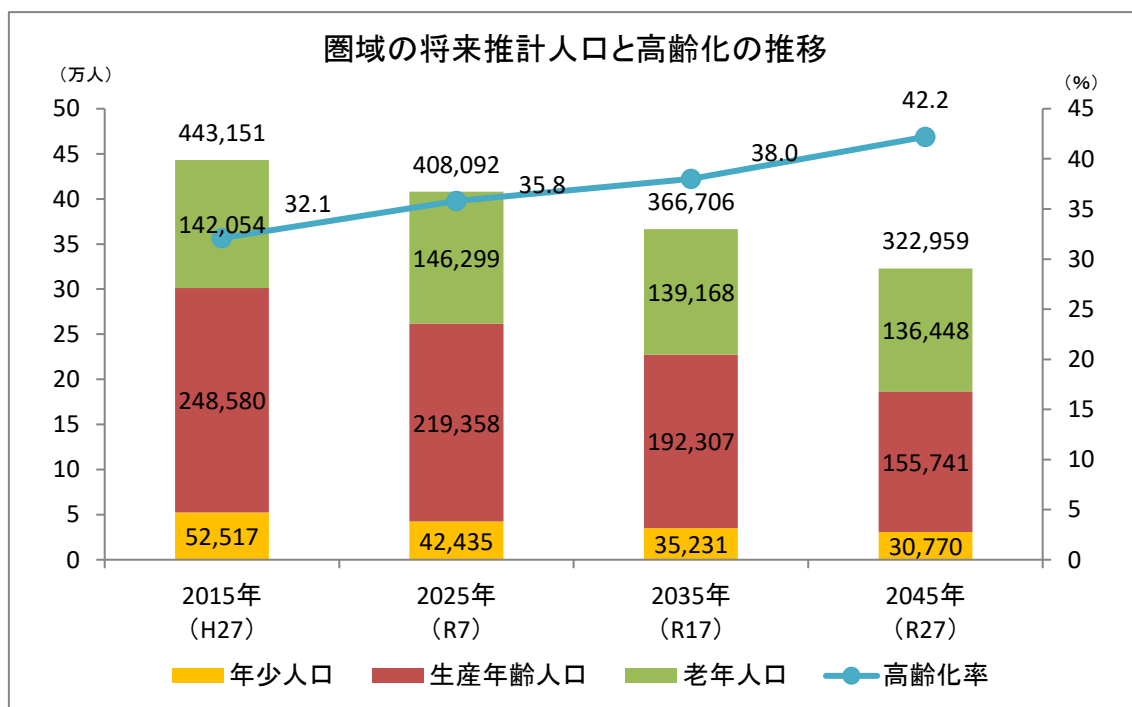
(2) 人口構成

本圏域の年齢別人口は、2015年（平成27年）時点における年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）ともに減少傾向にあり、2045年（令和27年）時点では、年少人口は2015年と比較して41.4%減少し、52,517人から30,770人に、生産年齢人口は37.3%減少し、248,580人から155,741人になると推計されています。

このような生産年齢人口の減少が進むことにより、農林水産業、製造業等を中心とする地域産業の衰退や地域医療、保健・福祉サービスを担う人材不足に伴う生活関連機能の低下が懸念されます。

一方、老年人口（65歳以上）については、2015年時点の142,054人から2025年（令和7年）には146,299人へと増加する見込みとなっています。その後は緩やかに減少し、2045年には136,448人になると推計されています。

高齢化率は、2015年時点では32.1%と全国平均（26.6%）を上回っており、圏域住民の約3.1人に1人が高齢者（65歳以上）となっています。2045年には住民の約2.4人に1人が高齢者になると推測されており、高齢化率は42.2%（全国平均36.8%）になる見込みとなっています。

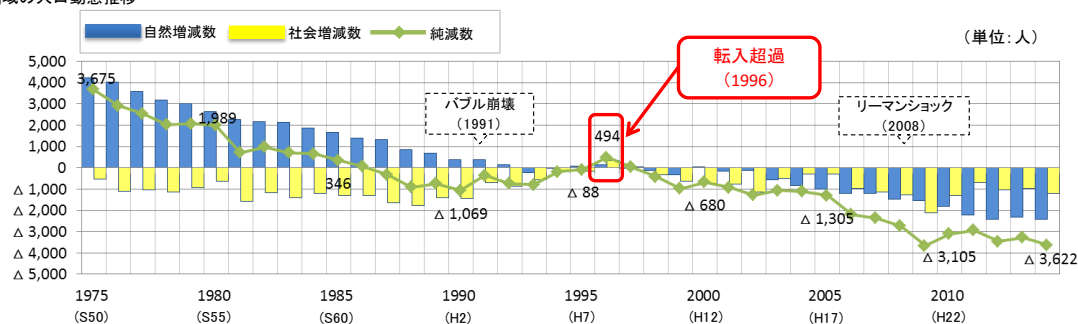


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

(3) 人口動態

本圏域の人口動態は、1996年（平成8年）に自然増・社会増となり、一旦人口が増加に転じましたが、その後いずれも減少し、以降、現在まで人口減少の傾向が続いています。

圏域の人口動態推移



出典：富山県「人口移動調査」

圏域の人口移動状況（直近3年間）

（単位：人）

	2016年(H28)～2017年(H29)※1			2017年(H29)～2018年(H30)※2			2018年(H30)～2019年(R1)※3		
	転入数	転出数	社会増減数	転入数	転出数	社会増減数	転入数	転出数	社会増減数
高岡市	4,779	4,759	20	4,522	4,683	-161	4,639	4,973	-334
射水市	2,500	2,522	-22	2,561	2,498	63	2,732	2,561	171
氷見市	845	1,060	-215	705	908	-203	770	1,145	-375
砺波市	1,668	1,656	12	1,737	1,691	46	1,860	1,838	22
小矢部市	734	754	-20	631	765	-134	762	790	-28
南砺市	1,060	1,249	-189	943	1,231	-288	1,069	1,289	-220
とやま西圏域	11,586	12,000	-414	11,099	11,776	-677	11,832	12,596	-764

※1 平成28年10月1日～平成29年9月30日

※2 平成29年10月1日～平成30年9月30日

※3 平成30年10月1日～令和元年9月30日

出典：富山県「人口移動調査」

3 圏域の産業

本圏域の就業者の総数は、2015 年（平成 27 年）の国勢調査によると約 22.5 万人となっており、県内就業者数の約 41.8%を占めています。産業別の構成比をみると、第一次産業が 3.6%、第二次産業が 33.8%、第三次産業が 62.7%となっており、全国的な水準より、第二次産業比率が非常に高いといえます。（同年の全国比率 25.0%）

産業別就業者数と割合

（単位：人、%）

	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
	就業者数	割合	就業者数	割合	就業者数	割合
高岡市	1,868	2.2	28,097	33.3	54,505	64.5
射水市	1,099	2.4	14,449	31.4	30,472	66.2
氷見市	1,030	4.4	8,060	34.8	14,094	60.8
砺波市	1,294	5.1	8,741	34.3	15,445	60.6
小矢部市	787	5.0	5,517	35.1	9,433	59.9
南砺市	1,883	7.0	10,014	37.2	15,030	55.8
とやま呉西圏域	7,961	3.6	74,878	33.8	138,979	62.7

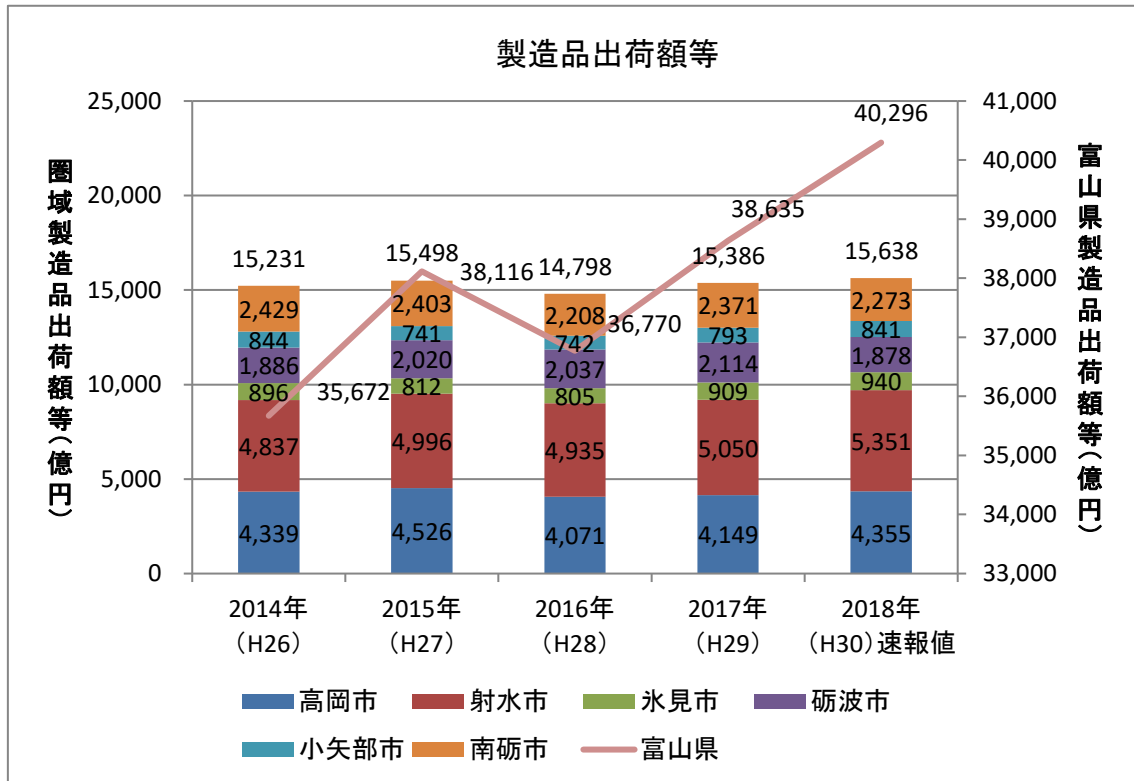
出典：平成27年国勢調査

（1）工業

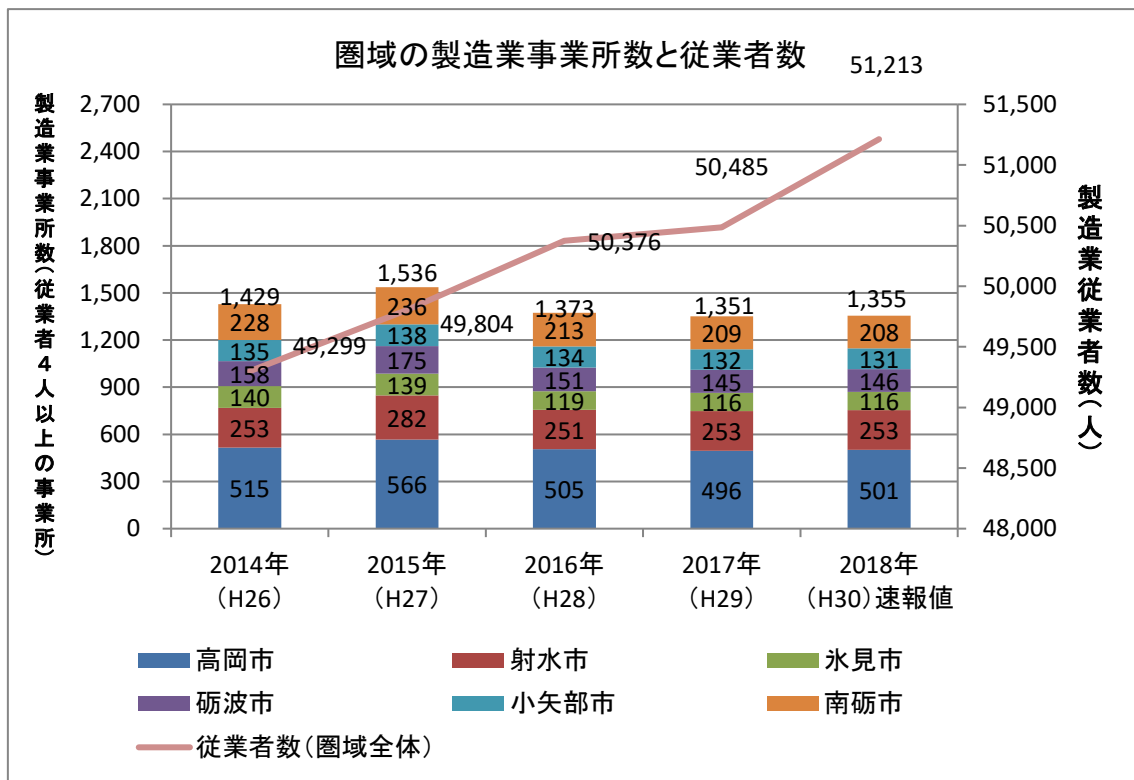
本圏域はアルミ、鉄鋼等の金属・非鉄金属製品を中心に、一般機械、電子部品、繊維、化学、電気機械等、ものづくり産業が集積しているほか、銅器、鋳物、木工などの伝統工芸産業も盛んであることから、県内の工業拠点としての役割を担っているといえます。

圏域全体の製造品出荷額は、2018 年（平成 30 年速報値）時点では約 1.5 兆円となっており、県全体の製造品出荷額の約 38.8%を占めています。同年の製造業事業所数は 1,355 事業所となっており、2014 年（平成 26 年）と比較すると 74 事業所の減少となっています。また、製造業従業者数については、2014 年時点の 49,299 人から 1,914 人増え、2018 年時点では 51,213 人となっています。

製造業事業所数は、2016 年（平成 28 年）に減少に転じてからはほぼ横ばい、製造業従業者数は、2014 年以降は増加傾向で推移しています。



出典：工業統計調査



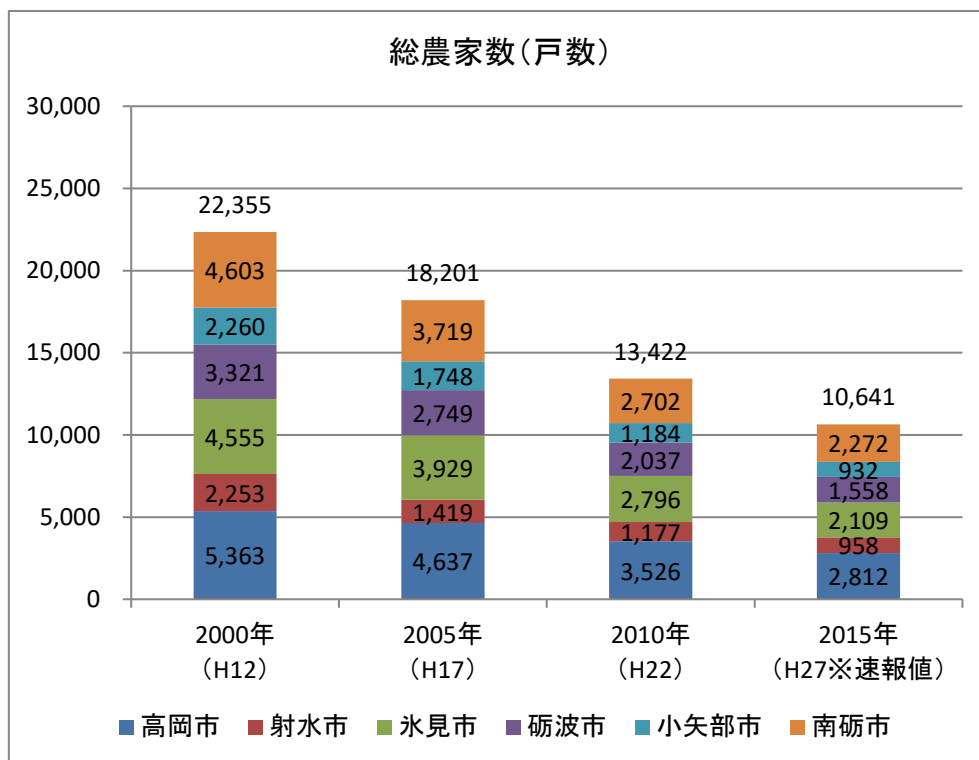
出典：工業統計調査

(2) 農業・漁業

本圏域では、砺波平野を中心に広がる穀倉地帯が、良質な米の産地となっているほか、干柿、里芋、利賀そば、赤かぶ、ハトムギなどの特産品も数多く生産されています。また日本一の球根出荷量を誇るチューリップも有名で、春のチューリップフェアには全国から多くの人が訪れています。

圏域全体の農家戸数は2015年（平成27年）で10,659戸となっており、県の約44.8%を占めています。経営耕地面積は24,685haとなっており、農家1戸あたりの平均経営面積は2.32haになります。

農業の担い手については全国的に減少傾向にあり、本圏域も同様、農家戸数は2000年（平成12年）の22,355戸から2015年には5割以上減少しています。



出典：農林業センサス

本圏域は、北部が「天然のいけす」と言われる富山湾に面しており、定置網が張り巡らされる良好な漁場となっています。富山湾は非常に海底が深く、複雑で起伏に富んだ海底地形や、対馬暖流と日本海固有冷水が混交し、好漁場を形成しています。

湾岸には氷見漁港や新湊漁港があり、四季を通じ、初夏は「マグロ」、冬は「寒ブリ」、さらには「ベニズワイガニ」、「アマエビ」、「シロエビ」、「氷見鰯」、「ゲンゲ」など、豊富な海の幸を堪能することができます。

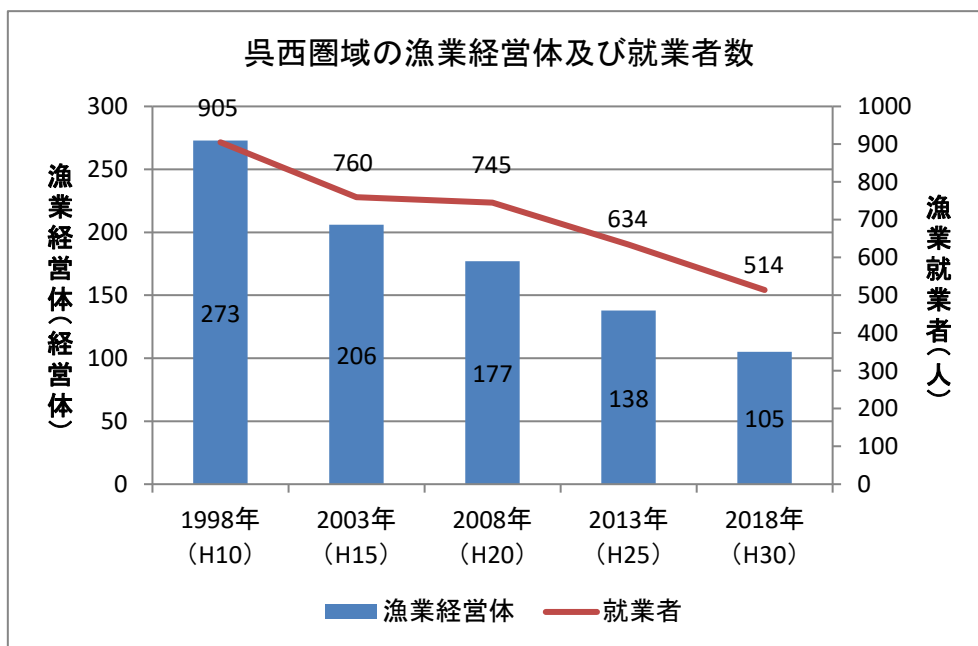


寒ブリ



ベニズワイガニ

漁業経営体及び漁業就業者（※高岡市・射水市・氷見市のみ）については、毎年減少しており、個人経営体は経営主の高齢化等による休廃業や後継者不足が課題となっています。



出典：漁業センサス

(3) 観光

本圏域の北部では、富山湾の氷見海岸から雨晴海岸にかけて、湾越しに3,000m級の立山連峰を間近に望むことができ、その景観は世界的にも珍しい大パノラマとなっています。南部では、砺波平野の水田地帯の中に屋敷林に囲まれた切妻屋根の農家が点在する「散居村」の美しい田園風景を見ることができます。世界遺産として登録されている五箇山地区では、冬の豪雪に耐えるため、屈強な構造を持った合掌造り家屋を見ることができます。



国宝瑞龍寺(高岡市)



海王丸パーク(射水市)



ひみ番屋街(氷見市)



砺波チューリップ公園
(砺波市)



クロスランドおやべ
(小矢部市)



世界文化遺産五箇山
合掌造り集落(南砺市)

直近3年間における圏域全体の入込数では、各年1,600万人を超える水準となっており、2018年(平成30年)時点では、県全体の入込数の51.8%を占めています。

構成市別入込数

(単位:千人)

	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)
高岡市	3,741	3,768	3,850
射水市	4,182	3,997	4,028
氷見市	2,090	2,018	2,024
砺波市	1,774	1,733	1,688
小矢部市	1,200	1,219	1,174
南砺市	3,797	3,689	3,687
とやま呉西圏域	16,784	16,424	16,451

出典：富山県観光客入込数等

4 都市機能の集積状況

①高等教育機関、研究機関・産業支援機関

本圏域における主な高等教育機関は、2020年（令和2年）時点で5つあり、約3,100人の学生が在学しています。工学、法学、芸術、福祉等、知の拠点として企業・社会のニーズに応え、想像力と実践力を兼ね備えた社会の発展に役立つ人材を育成し、地域の発展に貢献しています。

また、公的な学術研究機関として、県産業技術開発センター、県農林水産総合技術センター等が整備されているほか、圏域のものづくりデザイン拠点となる県総合デザインセンターや全国唯一となる県立の薬事総合研究開発センターなど、産学官共同による研究・開発を推進しており、圏域産業の育成・高度化や地域の情報発信拠点として期待されています。

区分	主な高等教育機関名	学部・学科	学生数(人)	所在地
大学	富山大学	芸術文化学部	493	高岡市
	富山県立大学	工学部	1,337	射水市
	高岡法科大学	法学部	218	高岡市
短期大学	富山福祉短期大学	社会福祉学科	108	射水市
		看護学科	227	
		幼児教育学科	96	
高等専門学校	富山高等専門学校	電子情報工学科	225	射水市
		国際ビジネス学科	217	
		商船学科	241	

出典：平成30年度「富山県の高等教育機関」

区分	主な施設
研究機関等	富山県産業技術開発センター、富山県ものづくり研究開発センター、富山県総合デザインセンター、富山県農林水産総合技術センター園芸研究所・木材研究所、富山県栽培漁業センター、富山県衛生研究所、富山県環境科学センター、富山県薬事総合研究開発センター など

②文化・スポーツ・観光施設等

本圏域では、各市において図書館や美術館、体育館等、様々な文化・スポーツ施設を整備しており、各地域の特色を活かした文化・スポーツ振興施策や施設の相互利用により、市民の生活の質の向上や交流人口の拡大に寄与しています。

また、海から山にかけての多彩な自然環境を備えるとともに伝統産業や文化財、祭礼行事、イベントなどの資源が豊富にあり、これらを核とした観光施設も整備されており、圏域の観光推進に活用されています。

区分	機能	主な施設
文化・スポーツ施設等	図書館	高岡市立中央図書館、射水市中央図書館、氷見市立図書館、砺波市立砺波図書館、小矢部市民図書館、南砺市立中央図書館など (18施設：高岡市5、射水市4、氷見市1、砺波市2、小矢部市1、南砺市5)
	美術館・博物館等	高岡市美術館、射水市新湊博物館、氷見市立博物館、砺波市美術館、アートハウスおやべ、南砺市福光美術館など (47施設：高岡市11、射水市8、氷見市1、砺波市6、小矢部市4、南砺市17)
	体育館等	東洋通信スポーツセンター（高岡市民体育館）、射水市新湊総合体育館、氷見市ふれあいスポーツセンター、富山県西部体育センター、小矢部市民体育館、南砺市福野体育館など (65施設：高岡市12、射水市8、氷見市2、砺波市16、小矢部市7、南砺市20)
	陸上競技場・野球場等	高岡西部総合公園野球場、歌の森運動公園野球場、氷見運動公園野球場、砺波総合運動公園、小矢部陸上競技場、福光総合グラウンドなど (15施設：高岡市5、射水市2、氷見市1、砺波市3、小矢部市2、南砺市2)

区分	所在地	主な施設等
観光資源	高岡市	国宝瑞龍寺、勝興寺、高岡大仏、高岡御車山会館、金屋町・山町筋の町並み、高岡城跡（高岡古城公園）、高岡市万葉歴史館、ミュゼふくおかカメラ館、高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー、高岡御車山祭、伏木曳山祭、福岡町つくりもんまつり など
	射水市	新湊大橋、海王丸パーク、県民公園太閤山ランド、竹内源造記念館、陶房「匠の里」、大島絵本館、新湊きつときと市場、いきいき射水・太閤山フェスティバル、新湊曳山祭 など
	氷見市	氷見市漁業文化交流センター（ひみの海探検館）、氷見市潮風ギャラリー（藤子不二雄④アートコレクション）、氷見市 藤子不二雄④まんがワールド、氷見市海浜植物園（シーサイドパーク）、朝日山公園、氷見漁港場外市場ひみ番屋街、氷見温泉郷総湯、柳田布尾山古墳、大境洞窟住居跡、祇園祭り など
	砺波市	砺波チューリップ公園、チューリップ四季彩館、庄川水記念公園、庄川峡、庄川温泉郷、となみ夢の平スキー場、となみ散居村ミュージアム、出町子供歌舞伎曳山会館、増山城跡、となみチューリップフェア、庄川観光祭、となみ夜高祭、庄川水まつり、となみ夢の平コスモスウォッチング、庄川ゆずまつり、チューリップ公園KIRAKIRAミッション など
	小矢部市	桜町遺跡、埴生護国八幡宮、クロスランドおやべ、稲葉山牧場、俱利伽羅古戦場、宮島峡県定公園、津沢あんどんふれあい会館、石動曳山祭、津沢夜高あんどん祭、天神獅子舞祭り、源平火牛まつり など
	南砺市	相倉・菅沼合掌造り集落、瑞泉寺、井波彫刻総合会館、閑乗寺公園、タカンボースキー場、くろば温泉、IOX-AROSA、棟方志功記念館、たいらスキー場、そばの郷、城端曳山会館、桜ヶ池クアガーデン、福野夜高祭、城端曳山祭、スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド、南砺利賀そば祭り など

区分	所在地	主な店舗
大型商業施設 (店舗面積 5,000㎡以上) 等	高岡市	イオンモール高岡、グリーンモール中曽根など
	射水市	コストコホールセール射水倉庫店、アル・プラザ小杉など
	氷見市	プラファ、ハッピータウン氷見ショッピングセンターなど
	砺波市	イオンモールとなみ、MEGAドン・キホーテUNY砺波店など
	小矢部市	三井アウトレットパーク北陸小矢部、ピアゴ小矢部店など
	南砺市	福野ショッピングゾーン(ア・ミュー)、楽蔵グリーンモール福光など

出典：富山県ホームページ「大規模小売店舗の概要」（平成31年4月1日現在）※一部時点修正

③医療機関

本圏域は高岡市・射水市・氷見市で構成する高岡医療圏と、砺波市・小矢部市・南砺市で構成する砺波医療圏として、これまで保健・医療と福祉に係る連携を図ってきました。圏域内の医療施設は病院が 42 施設あり、そのうち公的病院が 11 施設となっています。これらの公的病院は、各医療圏において核となる医療機能を提供しており、その他の医療施設との連携のもとで、高度な医療サービスの提供及び地域医療の体制確立に向けて機能充実を図っています。

医療施設数等の状況

(単位: 所、床)

	病院	一般診療所			歯科診療所
		病床数	病床数	病床数	
高岡市	16	2,688	136	136	85
射水市	6	775	54	80	33
氷見市	4	407	31	30	15
砺波市	6	962	38	12	16
小矢部市	6	644	16	—	11
南砺市	4	739	31	19	17
とやま呉西圏域	42	6,215	306	277	177

出典：平成30年「医療施設調査」（平成30年10月1日現在）

拠点病院等の状況

機能	医療機関・施設名
三次救急医療機関 (救命救急センター)	厚生連高岡病院（1施設：高岡市）
二次救急医療機関	厚生連高岡病院、高岡市民病院、JCHO高岡ふしき病院、済生会高岡病院、射水市民病院、金沢医科大学氷見市民病院、市立砺波総合病院、北陸中央病院、南砺市民病院 （9施設：高岡市4、射水市1、氷見市1、砺波市1、小矢部市1、南砺市1）
休日・夜間急病センター	高岡市急患医療センター、砺波医療圏急患センター （2施設：高岡市、砺波市）
地域周産期母子医療センター	厚生連高岡病院、市立砺波総合病院 （2施設：高岡市、砺波市）
がん診療連携拠点病院	[国指定] 厚生連高岡病院、高岡市民病院、市立砺波総合病院 （3施設：高岡市2、砺波市1） [県指定] 済生会高岡病院（1施設：高岡市）
地域災害拠点病院	厚生連高岡病院、高岡市民病院、市立砺波総合病院 （3施設：高岡市2、砺波市1）

出典：富山県医療計画(平成30年3月改訂版)

④公共交通等ネットワーク

本圏域は、日本列島のほぼ中央に位置しており、東に富山市、西に金沢市と隣接しています。また、3大都市圏からほぼ等距離に位置しており、鉄軌道や高速道路等によるアクセスが確保されています。

鉄軌道は、圏域を横断する北陸新幹線とあいの風とやま鉄道、また、高岡駅を起点として海側に JR 氷見線と万葉線の2路線、山側に JR 城端線の計3路線が南北方向の鉄道ネットワークとして形成されています。

道路では、広域幹線道路として北陸自動車道、国道8号、359号、415号が東西に横断しています。南北には、中京圏と直結する東海北陸自動車道と能登半島に伸びる能越自動車道といった高規格道路のほか、国道156号、160号、304号による道路ネットワークが形成されています。

また、日本海側の「総合的拠点港」である伏木富山港（伏木地区・新湊地区）を有し、国際定期航路や充実した港湾施設により、環日本海交流の中核を担う貿易港として期待されています。

富山きときと空港や隣県である石川県の小松空港、のと里山空港など、空路も近接しており、陸・海・空の広域交通網が充実している本圏域は、広域的な交流拠点として発展する高い資質を備えているといえます。



圏域の道路・鉄軌道等ネットワークの状況

